

IV あとがき

1 令和3年度 施策調査専門委員会の検討内容

本点検結果報告書を作成するにあたり、施策調査専門委員会で議論した内容や意見等について、P12-2～12-5 のとおりまとめる。具体的な検討状況については、県水源環境保全課ホームページに掲載している。

(<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/pb5/cnt/f7006/p23138.html>)

●主な議題・議論

開催回	開催日	主な議題・議論
第 55 回	R3. 7. 2	<p>1 第4期における経済評価の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第4期の経済評価実施に向けて、事務局から説明し、業務の流れ、仕様書案、有識者検討委員会の施策調査専門委員会からの委員選出人数について意見交換を行った。 ○ 有識者検討委員会の外部有識者については、環境評価の専門家は1名で十分、他は森林の生態系に詳しい専門家に入っていただく方がよい。 ○ 有識者検討委員会の構成は施策専門委員会から3名程度、外部有識者2名程度とする。 ○ 前回と比較するのであれば、手法は同じにしておいた方がよい。 ○ アンケート内容にいて県民会議委員に確認してもらう機会が設けられると良い。 ○ SDGs、Nature-based Solution、グリーンインフラの視点でどれぐらい効果があったかというのが重要。 <p>2 令和2年度モニタリング調査結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 森林関係のモニタリング調査について、水源環境保全課、森林再生課及び自然環境保全センターから、河川のモニタリング調査結果については環境科学センターから、それぞれ令和2年度の実施内容を報告し、意見交換を行った。 ○ 航空レーザー測量の広域の図面は非常に分かりやすい、色々な場面で活用できると良いと思う。細かい現場のデータと突き合わせて検証する部分は検証する、外挿できるところは外挿して、仮に対策をしなかったらこうなっているだろうということをしてできるだけ広域で県民の方に見せられるとよい。 ○ 河川の県民参加型調査について市民調査は比較的簡便な方法で多くの地点を継続して取れると言うことに加え県民の環境意識、地域に対する意識が上がると言う効果がある。 <p>3 第4期かながわ水源環境保全・再生実行計画案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事務局から第4期かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画(案)について説明し、意見交換を行った。 <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 山の森林整備の状況(シカ管理捕獲の強化)について水源環境保全課から、ウッドショックの神奈川県内の影響について森林再生課から原木材木の価格の状況についてそれぞれ説明し、意見交換を行った。 <p>5 令和3年度の委員会開催スケジュール等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事務局より令和3年度の委員会開催スケジュール(変更案)を説明した(年4回開催予定)。
第 56 回	R3. 9. 27	<p>1 令和2年度点検結果報告書について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業の進捗状況の「基金等」について、基金等というのがそもそも何であるか、

開催回	開催日	主な議題・議論
		<p>どのように管理されているのかなど説明は必要ではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 6番事業の総括「工事を実施した箇所周辺の住民からの評価も概ね良好とのことであった」という文言がある。住民からの評価がどうだったのか、そういう記載もどこかにあると良い。 ○ 7番事業の総括「秦野市で以前地下水汚染が確認されているのだけれども」という文があるが、座間市はテトラクロロエチレン、中井町は硝酸性窒素が問題になっているという記載があるので、秦野市のほうにもテトラクロロエチレンという文言を入れたほうが良いのではないか。 ○ 森林環境譲与税と水源環境保全税のすみ分けについて、11番事業の本文に記載すべき。 ○ 全体総括の中で「民間主体の持続的・自立的な森林管理」について、将来的に民間が主体となっていくことが望ましい。それはなぜかということの説明が必要 <p>2 最終評価報告書暫定とりまとめについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和4年度までの環境モニタリングの結果を踏まえて単純に評価する部分と、第4期終了時まで、令和8年度までの事業効果の予測というところを踏まえて議論する内容と、2つのパターンがある。予測は難しいが、定性的な話、定量的な話、やり方は幾つかあると思うので、その辺を整理しておく必要がある。 ○ 中間評価報告書に使用した指標は引き続き使用する。一方、指標から抜け落ちるものをいかに拾うかを判断するため、モニタリングデータをまとめたものが欲しい。 ○ 最終評価に向けて、シカの頭数変化データ、隣県の森林状況、隣県のシカ管理状況等が欲しい。 ○ 大綱終了後に向けた意見書作成のため、「民間主体の持続的・自立的な森林管理」関連では、事業体毎の事業量・事業者数等のデータが必要。その他、他県の事例収集や、気候の変化や社会情勢の変化など外的要因についてもデータが必要となる。 ○ 税制ありきではなく、20年間の評価をした上で、今後必要な施策を整理し、意見書としてまとめることが重要。
第 57 回	R4. 1. 12	<p>1 特別対策事業の点検結果報告書（令和2年度実績版）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県民会議委員に対して行った意見照会での意見内容と対応方針を確認した。 ○ 7番事業の硫酸性窒素の補足説明については、健康被害だけではなく、環境に対する影響もあるということで、両方に触れると丁寧ではないか。 ○ 森林モニタリングの図を見やすくするか、レイアウトを変えるか検討願いたい。 ○ 全体総括の「イベント等の開催を自粛したため一部の取組は実施できなかったが、事業については概ね計画通り」との記載があるが、イベント等は事業ではないということになってしまうので、「その他の事業については」としていただきたい。 ○ 全体総括の土壌保全対策の部分を目標達成の状況を具体的に分かるように修正する。 ○ 全体総括の「森林の公益的機能」の後に「持続させるための対策やシカ対策の継続などの課題は引き続きあるものの」とあるが、継続というのは課題なのか。「森林の公益的機能を持続させるための対策」の中には「シカ対策」も含まれるので、「シカ対策」を中にいれるような書きぶりとする。 <p>2 施策調査専門委員会の次期委員への引継内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度ごとの点検結果報告書についてを①として追加する。

開催回	開催日	主な議題・議論
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 経済評価について「SDGs やグリーンインフラ、NbS といった副次的な効果を含めた経済評価の結果を」と書いてある部分は、SDGs は目標で、グリーンインフラ、NbS は名詞なので、「SDGs やグリーンインフラ、NbS の観点からも効果を」というほうが良い。 ○ 最後の結びの部分「検討」を経済評価を行い、その上で最終評価へつなげることを引継ぎとして書けると良い。 <p>3 令和2年度森林環境譲与税の使途について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 森林再生課から令和2年度の県及び県内市町村の森林環境譲与税の使途について説明し、意見交換を行った。 ○ 将来的に森林の管理体制を上げられるかが重要。大綱終了までの間に、林業就労者あるいは林業事業者が上向きに増加したかどうかということ、モニターしていただきたい。 ○ 民間事業者というのが、これまでの木材生産に偏る必要は全くなく、今後の林業の在り方としては、エネルギーに転換するという話や、防災の観点で森林管理を請け負っていくという事業者になるかもしれないが、その辺の推移をきちんとモニターしていただきたい。
第 58 回	R4. 2. 21	<p>1 特別対策事業の点検結果報告書（令和2年度実績版）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前回（第57回施策調査専門委員会）で指摘のあった修正事項について確認を行った。 ○ 7番事業の硫酸性窒素の補足説明は「アオコ」で説明するのは妥当だが、「アオコなどを引き起こす」では適当ではないので、修正する。 ○ 概要版にQRコードを入れられるようであれば、追記する。 <p>2 施策調査専門委員会の次期委員への引継書について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特別対策事業の実施状況の点検・評価について、情報発信に関しては、来期に行う部分に関しては、少し追記をする。会議、フォーラム等も活用しながら、分かりやすい形で情報発信をしていくべきだということも書き込む。 ○ 施策大綱期間終了後を見据えての点検・評価等について、大綱終了時の活動として報告書暫定版を作成するだけでなく、一般向けの最終的な報告会、出版物などのアイデアとして書き込んでおいて、後で議論できるようにしておきたい。 ○ 施策評価スケジュール等のどこかに、フォーラムについて感染状況が許せば開催をするという形の記載を入れておく方向で修正する。 <p>3 令和3年度までのモニタリング結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和3年度までのモニタリング結果について、自然環境保全センター、森林再生課、水源環境保全課、環境科学センターからそれぞれ説明した。 ○ 神奈川県丹沢山地、あるいは箱根も、季節移動等、全体を眺めた上で、一つの環境基準として平方キロ何頭といった密度目標を設定できたなら、その後のシカ管理にきちんと対応できるように思う。 ○ 植被率というのは、一番初めの森林が荒廃したときから復活していくときには、非常に有効な指標だが、階層構造が発達し低層部が増えてくると、逆に植被率が下がってしまう。第4期の指標として適当か。目指すべき森林の形がかなり多層化した森林であるとする、その最終目的を示す指標として、これがいいのか。 ○ 将来において適切な森林管理のためにどれほどの林業技術者を確保していかないといけないということを、大綱終了時では是非示していただきたい。 ○ 特別対策事業で行われているモニタリングに関しては、19年度目、20年度目の最

開催回	開催日	主な議題・議論
		<p>終評価に間に合う形で結果を出せるよう、モニタリングのスケジュールを組んでいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和5年は可能な範囲で相模川水系の調査、環境DNA、アオコのモニタリングの結果も暫定版としてお示しいただくと良い。 <p>4 最終評価報告書の構成案について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 森林の環境基準、将来像、望ましい姿というところも最終的に記載が必要 ○ 指標の追加などの議論が必要。 ○ 「かながわの水がめは？」にダム湖のダム堆砂のデータを入れられるか。 ○ 土壌流出と水や生き物への影響というのは、土砂とシカの話だが、書き方を現時点でどうアップデートできるか。 ○ 神奈川県内の森林の蓄積、林齢構成、森林面積は15年間でどう変わったかという情報は当然ここに入ってくる。そういう意味で、前半の部分もデータのアップデートが要る部分もある。 ○ 経済評価の結果について、評価資料の中に記載されているが、評価の本体のどこかに項目を立てて入れる必要がある。 ○ 事業の結果や環境の変化の詳細な部分に関しては、資料編に掲載されると思うが、最終版としては、この部分がかんりのボリュームを持つことになる。場合によっては、資料編ということで切り離して、別の冊子体としてもいい。 <p>5 令和4年度経済評価に係る有識者委員の選出について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 外部有識者委員は、環境評価の専門家1名、森林のメカニズムもしくは生態系に詳しい専門家1名の2名を選出する。 ○ 施策調査専門委員会からは、経済分野から大沼委員、森林分野から土屋委員、水分野から吉村委員長を選出する。